平成26年洞爺湖町教育委員会第6回臨時会会議録

日 時	平成26年12月29日（月） 13:30より
場 所	役場第1委員会室
出席委員	委員長 岩原 義 美 委員長職務代理者 吉 田 聡 委員 増 山 和 世 委員 来 栖 由 喜 教育長 綱 嶋 勉
欠席委員	無し
説明員	管理課長 天 野 英 樹 社会教育課長 永 井 宗 雄 社会教育課主幹 角 田 隆 志
会議録調整者	管理課学校教育・保育グループ主査 高 橋 憲 史 管理課学校教育・保育グループ主任 今 谷 聡 夫
傍聴者	無し
日程第1 【開会宣言】	岩原委員長 開会を宣言する。（13:30）
日程第2 【前回会議録の承認】	岩原委員長 各教育委員の署名により、承認を確認。
日程第3 【教育長諸般の報告】	綱嶋教育長 10/18 洞爺湖温泉小学校学習発表会（温小体育館） 10/19 虻田小学校開校130周年記念学芸会（虻小体育館） 10/20 町政懇談会（あぶたコミュニティーセンター 他6カ所） ～31 10/21 定例教頭会（役場） 10/25 とうや小学校学習発表会（とうや小体育館） 10/25 洞爺湖町総合文化祭<ステージ>（あぶたふれ合いセンター） ～26 10/27 洞爺湖町議会10月会議（議場）

10/27	社会教育委員会議（役場）
10/30	教育委員学校訪問（虻田小、温泉中）
11/1	洞爺湖町総合文化祭＜展示＞（あぶた体育館）
～3	
〃	洞爺湖町民文化祭＜展示＞（洞爺総合センター）
11/3	洞爺湖町表彰式典（防災研修ホール）
11/5	教育委員学校訪問（洞爺中、とうや小）
〃	教育委員会協議会（洞爺給食センター）
11/6	総務常任委員会（委員会室）
11/8	洞爺湖町教育長杯小学生バレーボール大会（あぶた体育館）
〃	洞爺湖町PTA連合会研究大会（防災研修ホール）
11/9	虻田小学校開校130周年記念集会（虻田小学校）
11/10	教育委員学校訪問（虻田中、虻田高校）
11/11	定例校長会（役場）
〃	特別支援教育連携協議会（防災研修ホール）
11/12	町政懇談会（観光情報センター）
11/13	町内小中学校の適正配置に係る懇談会（温泉中学校、温泉小学校）
～14	
11/14	洞爺湖子ども芸術文化フェスティバル（洞爺湖文化センター）
11/16	寄席演芸公演（洞爺湖文化センター）
11/21	洞爺湖温泉小学校公開研究会（温泉小学校）
11/21	ふるさと・ふれあい・フレンドリーツアー（香川県三豊市）
～24	
11/23	洞爺湖町民文化祭＜芸能部門＞（洞爺総合センター）
11/25	定例教頭会（役場）
11/26	洞爺湖町教育研究会 教育講演会（防災研修ホール）
〃	町政懇談会（泉集会所）
11/27	町立小中学校の適正配置に係る懇談会（温泉中学校）
11/28	虻田中学校校舎等耐震化工事並びに町内小中学校の適正配置に係る説明会（虻田中学校）
12/1	総務常任委員会（委員会室）
12/1	町内小中学校の適正配置に係る素案説明会（とうや小学校、洞爺中学校）
～2	
12/3	経済常任委員会（委員会室）
12/9	定例校長会（役場）
12/10	温泉中学校を虻田中学校へ統合することについての住民説明会（観光情報センター）
12/15	定例教頭会（役場）
12/16	洞爺湖町議会12月会議（議場）
～18	

- 12/24 硬水対策（虻田地区水道）事業竣工式（防災研修ホール）
- 12/26 就学指導委員会（防災研修ホール）
- 12/29 洞爺湖町教育委員会第6回臨時会（委員会室）

岩原委員長

ただいまの報告事項に何かご質問等ございませんか。

≪「ありません」という人あり≫

学校訪問の件につきましては、後で協議会の機会がありますので、そこで皆さんの感想を聞きたいと思っております。

では、何もないということで次に進めさせていただきます。

日 程 第 4

【 報 告 事 項 】

・ 報告第21号

岩原委員長

日程第4、報告事項。報告第21号管理課所管の各種事務事業の取組状況についてお願いいたします。

天野課長

それでは3ページでございます。報告第21号管理課所管の各種事務事業の取組状況について。

管理課所管の各種事務事業の取組状況について、次のとおり報告をするものでございます。読んで説明に代えさせていただきます。

洞爺湖町内小中学校適正配置に関する取組状況について。町内小中学校の適正配置につきましては、本年8月に洞爺湖町内小中学校の適正配置に係る素案を作成し、関係者の皆様と協議を進めてまいりました。

素案の大きなポイントである洞爺湖温泉中学校の統合を早急に進め、統合先を虻田中学校とすることについて、洞爺湖温泉中学校及び洞爺湖温泉小学校の保護者の皆様と協議を重ねてまいりましたが、この度、保護者の皆様から洞爺湖温泉中学校を虻田中学校へ統合することとし、統合の時期は平成28年4月1日とすることをご理解いただきました。また、保護者の皆様からご理解をいただきましたことから、去る12月10日に洞爺湖温泉の観光情報センター町民ホールにおいて、洞爺湖温泉、月浦及び花和地区の住民の皆様を対象とした洞爺湖温泉中学校を虻田中学校へ統合することについての住民説明会を開催したところであります。

今後におきましては、この学校統合が円滑に進むよう、関係者の皆様と十分に協議をしながら、早急に準備を進めてまいりますということでございます。以上でございます。

岩原委員長

ただいまの件につきまして、何かご質問、ご意見ございませんか。

この件につきましても、過去に皆さんと協議してきたところでございます。この最後の方にも書いてありますように、円滑に進むように取り計らって行きたいと考えます。

・ 報告第22号

なければ、報告第22号社会教育課所管の各種事務事業の取り組み状況につ

いてお願いいたします。

永井課長

ページは4ページでございます。報告第22号社会教育課所管の各種事務事業の取組状況について、次のとおり報告するものでございます。

まず1点目でございますが、洞爺湖町総合文化祭の開催について。平成26年度につきまして、総合文化祭は虻田地区と洞爺地区でそれぞれ開催をしております。虻田地区ステージ部門、それと展示部門を合わせまして1,176名の町民の方々にご覧いただきました。

洞爺地区につきましては、展示部門、ステージ部門を含めまして、合わせて509名のご来場をいただいたところでございます。いずれも盛会のうちに終了することができましたのでご報告いたします。

2点目でございますが、寄席演芸講演の開催についてでございます。

11月16日、洞爺湖文化センターにおきまして、寄席演芸公演IN洞爺湖が開催をされております。これは芸術鑑賞の機会を広く提供していこうというところで、心に夢の灯をともし芸術鑑賞会の事業の一環として開催をいたしてるところでございますが、当日240名のお客様にご来場いただきました。盛況のうちに公演開催いたしましたということで、ご報告をいたします。

なお、芸術鑑賞の機会ですけれども、今年度につきましては、明けまして2月22日の日曜日に、洞爺湖文化センターにおきまして、北海道農民管弦楽団の公演がございますので、委員の皆様にもご来場いただきますようよろしくお願いいたします。以上でございます。

岩原委員長

ただいまの報告、この件につきまして何かご意見、ご質問ございませんか。

《「ありません」という人あり》

ないということでございますので、次に移らせていただきます。

報告第23号、臨時代理の報告についてよろしくお願いいたします。

天野課長

5ページでございます。報告第23号、臨時代理の報告について。

洞爺湖町議会平成26年12月会議提出補正予算について第9号でございます。

洞爺湖町教育委員会教育長に対する事務委任規則（平成18年教育委員会規則第4号）第2条第1項の規定により、別紙のとおり臨時代理したので、同条第2項の規定により、これを報告するものでございます。

まず6ページにつきましては、教育長から町長宛にこの補正に対する異議のない旨の回答。それから7ページにつきましては補正に対する意見を求められた町長から岩原委員長宛の文章を添付してございます。8ページ、9ページになります。9ページをご覧ください。まず歳入でございます。

2歳入、14款国庫支出金、1項国庫負担金、6目教育費国庫補助金の2節中学校費補助金236万5千円の増額補正でございますが、これにつま

しては、虻田中学校の地下オイルタンクライニング工事に係る補助金53万2千円と洞爺中学校特別支援学級教室の改修工事の183万3千円の合計236万5千円の国庫補助を見込んでいます。なお、虻中の地下オイルタンクライニング工事につきましては、既に夏休み実施済。それから洞中の特別支援教室につきましては、若干ずれ込みますが、冬休み中を中心に実施をするという予定になっているところでございます。

17款寄附金、1項寄附金、1目一般寄附金の808万6千円のうち、5万円が洞爺湖温泉病院から洞爺地区の小中学校図書購入費ということで5万円の寄附をいただいております。歳入で受けて歳出で支出をするということになっているものでございます。

続きまして10ページに参りまして歳出でございます。10款教育費、1項教育総務費、3目諸費でございます。18節備品購入費5万円につきましては、今申し上げました洞爺温泉病院からの5万円の寄附によって、洞爺地区の小中学校図書購入費に充てるということで5万円でございます。

それから、19節負担金補助及び交付金128万8千円の増額補正につきましては、私立幼稚園就園奨励補助金でございますが、当初予算で29名見込んでおりましたが、実際には36名で7名の増ということで増額してございます。

これにつきましては、補助要件の中で、第2子所得制限の撤廃がございまして、これに係る増が5名。それから対象者の増が2名ということで、全体で7名が増となったものによるものでございます。

それから3項中学校費、1目中学校管理費、11節需用費の43万2千円の修繕料につきましては、虻田中学校の伊達側にあるグラウンドフェンス。テニスコートの向こう側に古いものがある。一部校舎側にもありますが、それが相当老朽化で根本が腐ってきて、相当細っていて非常に危ない状況になっているということで、学校と協議をしまして、撤去するというにいたすものでございます。

なお撤去後、新たなフェンス等はいらないということで確認してございますので、野球のボールがそこまで飛ぶって事は多分ないと思いますので、ころころ転がっていく可能性はありますけども、学校へ確認したらいらないということでございますので、撤去のみということで、危険を取り除きたいということの補正でございます。管理課は以上でございます。

永井課長

社会教育関係でございます。

9ページに戻っていただきまして、17款寄附金、1項寄附金、1目一般寄附金で1節で一般寄附金の808万6千円のうち、3万円につきましては、ななかまどの会より図書購入の指定寄附を受けてございます。

10ページに移りまして歳出でございます。10款教育費、1項教育総務費、5項社会教育費、4目図書館費で18節備品購入費で3万円、図書購入費で充ててございます。以上でございます。

岩原委員長

ただいま説明をいただきましたけれども、この件について何かありませんか。

洞中のこの工事は冬休み中に終われるのですね。

天野課長

ちょっとずれ込みます。冬休みと一部明けてからと3学期に入りますけども、授業に支障がないような形で執り行いたいと今考えているところでございます。

岩原委員長

あと蛇中のフェンスは、除去して新設しなくてもいいということなのですね。

天野課長

テニスコートがあるのですが、テニスコートも現実使っておりません。また、テニスコートにはサッカーゴールを置いてあり、いらないということで新しく設置はしないということで考えてございます。

岩原委員長

他皆さんの方から何かございませんか。

《「ありません」という人あり》

なければ次に移りたいと思います。

日程第5

【議決事項】

・議案第31号

岩原委員長

日程第5、議決事項。議案第31号洞爺湖町内小中学校の適正配置計画の策定についてお願いいたします。

天野課長

それでは11ページになります。議案第31号洞爺湖町内小中学校の適正配置計画の策定について。

洞爺湖町内小中学校の適正配置計画について、別紙のとおり策定することについて議決を求めるものでございます。12ページから20ページまでとなっております。

12ページ洞爺湖町内小中適正配置計画ということで、要旨が載っておりますが、全体的な大きな素案との違いについて説明をさせていただきます。3点程でございます。

まず、全体的に文書表現を素案につきましては「です」「ます」体を使っておりますでしたが、計画につきましては、「である」体に変更させていただいて、協議が整いましたので言い切り型に変えているところでございます。

2点目でございます。適正配置計画に関する考え方、19ページになります。

19ページの洞爺湖温泉中学校の中で、統合の時期の関係でございますが、素案においては1年半から2年程度の準備期間をとって行うことが望ましいとしておいたものを、28年4月1日とするということで協議が整ったので、

時期を明記したということに置きかえたもの。

それから大きく3点目でございます。20ページの教育環境の整備の次に、素案では今後の進め方ということで入れてございましたが、協議が整いましたので、今後の進め方を削除したということで大きくこの3点を書いたということで計画とさせていただきますというものでございます。

なお、内容につきましては、それ以後変わってございませんので、説明については省略をさせていただきたいと思っております。以上でございます。

岩原委員長

この件につきまして、皆さんご質問ございませんか。

以前から提示されて、皆さんと協議してきたものですが、文体が変わったということと、確定したということで一部文言が変わっているということでございます。

綱嶋教育長

先ほど諸般の報告で、洞爺地区の小学校、中学校の保護者の皆さんは、5月の懇談の時もあの地域に小学校、中学校を。

教育委員会の素案としては、洞爺中学校は生徒数の推計からすると統合の対象で、町内1中学校とすべきですという考え方を示したのですが、理解は得られない。そういう状況ですけど、先ほど保護者や地域の方々にとっては、小学校があり中学校があって、地域としての活動の拠点と言いますか、そういう希望なり考え方を持っているのは、よくわかるのですが、この地域だけの問題でありませぬので、少子化という問題は、中学校の教育活動としてはマイナス部分、プラス部分もそれぞれありますけど、総体的に8月に策定した町内中学校1校という考え方は、この最終計画でも踏襲する。

多分ここには異論も出るでしょうけど、具体的にどうするというものではありませんので、その辺は確認をしていただきたいと思いますということでございますので、よろしく願い申し上げます。

岩原委員長

洞爺中学校の懇談会にも出席したのですが、今教育長も言ったように、地域の方はまだ洞爺地区での教育が決して劣っていないのだということで、今しばらくはまだこの状況で子どもたちを通わせたいという意見があった。

そういう考えですけども、やはり生徒数の減少に伴って、教育環境というものを考えたときに、将来的にやはり1校でというか、もう少し人数の多いところで教育させるべきではないのかなと私は思っています。まだ、地域の理解としてはそこまでいっていないということでございます。

この件につきまして、何か皆さんご意見、ご質問ございませんか。

来栖委員

洞爺中学校というのは、もともとずっと少ないのですか。今ほどではないにしても、ずっと少ないのですか。

綱嶋教育長

過去は1学年20人ぐらいの時代もある。

高橋主査

時期的なものなんとも言えませんが、10年ぐらい前までは15人から25人ぐらいの学級はあったと記憶しております。

綱嶋教育長

30人前後というか、それより少なくなっていく。今のままで20人台。

増山委員

全校生徒が20人台、学年ではなく。前は学年で20人だった。

綱嶋教育長

確かに通学距離は問題もありますから、なかなか中学生といえど、もうちょっと町の登校しやすい場所に中学校が新設されれば別ですけど。通学距離は、今の虻田中学校に来るとなれば、遠いところは1時間ぐらい。スクールバスでぐるぐる回ったら、そんなものじゃないですし、そういう難しさは現実的にあります。中学生なので、やはり20人をきると。将来推計でも1人という学年も現実にいる。ですから、その辺を考えると複式の温中と同じような状況になるかもしれない。

来栖委員

今の温泉中学校みたいに資格のない先生が教えなくてはならない部分もでてくるということですよ。

綱嶋教育長

今、免外というか持っていない人が教えているというのは現実にあります。

虻田中学校だって美術等持っていないのは当然です。ただし、主要教科はやっぱり免許を持っている先生ということで、先生の配置は考えています。主要5教科や体育は中学校で教えられない先生だったら、小学生ならまだしも、少人数だって難しい。ただ、将来の生徒の見通した時にそういうことも考えていかないということを保護者も考えてください。でも教育委員会に求めているのは、教育の特色ある教育で子供は増える要素もあるという言い方なのです。確かに魅力ある町だという時代ですけど、多少そういう影響で増える要素はある。移住してくる人はそういうのを積極的に考えるという地域の方のご意見でごもっともなのですが、先ほど委員会始まる前にちょっと話していた、文科省はいろいろなアドバルーンを上げて規制緩和として、例えば、小中一貫教育を町村で実施してもいいですよとある。

でも、そこには学校一つの校舎でないと意味をなさないとは私は思っている。離れている場所で一貫して相互交流は確かにできるかもしれませんが、本来は6・3制を見直しして、9年間で子供たちにとってどうすべきなのかである。

中学校のように専科の先生が小学校の理科も求められている。いろいろな実験をすとか、専門的な部分は専科の先生が小学校の高学年を教えるべき。そのためには、町内の中学校の先生を小学校に派遣して、英語もそうだ。現実的には余裕がある教職員の配置だ。でもたまにやるのでは意味がなさない、恒常的にやれるようじゃないと。

市町村の教育委員会独自でやっていいですよというのはありますが、現実的になかなかその体制はできていない。

増山委員

カリキュラムをまず作らないといけない。その先生がずっといるかといったら、私立のように4年、校長先生は3年交代ですし、現場の先生は5年経ったらどんどん出て行ってしまいますし、カリキュラムを作るのが難しい。

綱嶋教育長

それこそ6・3制から小中一貫でカリキュラムを独自に作って、そういう先生を確保しないとできない。例えば、虻田小学校で特別支援学級はなかったですけど、18か19の普通教室はある。でも学級数少なくなっても支援学級が多くなっている。

中学校が入るってことは、いろんな設備が中学生に必要ですし、グラウンドの問題。あのグラウンドで中学校の部活も含めて、体育館を併用したらどうなのだろうといろいろな課題がある。学級数が少なくなったとしても、やっぱり何らかの手だてはしないとだめ。あのグラウンドで中学生では、野球とかサッカーが持続できるかどうかわかりませんが、ちょっと手狭な課題があります。

そういう特色ある教育を進めるのは、確かに必要性は現実的にどんどん変わっていくと思います。そういうことも教育委員会として検討しないとだめだし、具体化していかないとだめだと思いますが、なかなか簡単にはいかない部分が片方ではある。

ただ現時点では、生徒数の推計から見て、やっぱり将来的には中学校1校ってというのが教育委員会。ただ小中一貫となれば、洞爺地区小学校が残ったとしたら、一定の中学生を確保できれば、向こうのエリアで小中一貫というのをやっぱり検討の材料にはなると思います。現状ではこういう考え方で取りまとめをせざるを得ない。

岩原委員長

この統合ということでなくしても、この洞爺湖町における教育のあり方というのを新たな気持ちで協議していく必要もあるのかなという気がしております。将来ビジョンをまた語りながら、一つの洞爺湖町における教育ってものを考えなければならぬのかなと思います。

この件につきまして、他に何かご意見ございませんか。

なければ、この件につきましては、ご承認いただいたということにいたします。

・議案第32号

議案第32号、洞爺湖町立学校通学区域規則の一部改正についてお願いいたします。

天野課長

21ページになります。議案第32号洞爺湖町市立学校通学区域規則の一部改正について。洞爺湖町立学校通学区域規則の一部を改正する規則を次のように定めるものとございます。

洞爺湖町立学校通学区域規則平成18年教育委員会規則第13号の一部を次のように改正するというので、先ほど担当の方からお配りした1枚もののペーパーなのですが、温泉中学校と虻田中学校を統合するにあたってのということで、保護者の皆様の協議結果ということで4点ほど書いてございますが、この中の(2)と(4)の協議結果に基づいて、27年度の特例として、それぞれ自由に選択できるというようなことを規則に落とし込まないといけませんので、これらを規則に5つほど附則に足して、これらを可能とするという規則の改正ということで、ご理解をいただきたいと思います。

それでは21ページに戻ります。附則に次の5項を加えるということで3項でございます。洞爺湖温泉小学校6学年に在籍する児童の平成27年度における通学区域等の特例措置でございます。

平成26年度において、洞爺湖温泉小学校6学年に在籍する児童の平成27年度に通学すべき学校及び就学すべき学校については、第2条及び第3条本文の規定にかかわらず、保護者の申し出により、洞爺湖温泉中学校または虻田中学校のいずれかを選択することができるということで、これについては本来であれば、温小の子供たちは温中に行くということが決められているのですが、選択できるようにまずするという特例。

それから、第4項の花和地区に居住する児童生徒の平成27年度における通学区域等の特例措置ということで、花和地区に居住する児童生徒の通学すべき学校等については、次のとおりとするということで、(1)平成26年度において、洞爺湖温泉小学校に在籍する児童の平成27年度に通学すべき学校及び就学すべき学校については、第2条及び第3条本文の規定にかかわらず、保護者の申し出により小学校にあっては、洞爺湖温泉小学校又はとうや小学校のいずれかを、中学校にあっては洞爺湖温泉中学校又は洞爺中学校のいずれかをそれぞれ選択することができる。(2)平成27年度において学校に入学(転入学及び編入学を含む。)しようとする者の学校は、第3条本文の規定にかかわらず、前号の例による。

次に第5項でございます。洞爺湖温泉中学校1学年及び2学年に在籍する生徒の平成27年度における通学区域の特例措置でございます。平成26年度において洞爺湖温泉中学校1学年及び2学年に在籍する生徒の平成27年度に通学すべき学校については、第2条の規定にかかわらず、保護者の申し出により洞爺湖温泉中学校又は虻田中学校のいずれかを選択することができる。

第6項の洞爺湖温泉中学校の通学区域等に係る入学者等の平成27年度の特例措置でございます。平成27年度において学校に入学(転入学及び編入学を含む。)しようとする者の学校は、第3条本文の規定にかかわらず、前項の例による。また、通学すべき学校についても第2条の規定にかかわらず、同様とする。

第7項保護者の申し出でございます。第3項から前項までの保護者の申し出は別記様式第5号によるものとする。別記様式に次の1様式を加えるとい

うことで、別記様式第5号ということで、通学（入学）すべき学校の申出書ということで、新たに規則をつくって申し出を受けるという形をとるということでございます。

附則でございますが、この規則は公布の日から施行するというので、今日議決をいただいた後、できれば明日にでも対象児童生徒が25名、保護者20件ということで、この申出書を入れて文章を差し上げて、来年1月13日火曜日までに申し出をいただいて、取りまとめをしたいと現在考えているところでございます。以上でございます。

岩原委員長

ただいまの説明について、何かご質問ございませんか。

かねてから、逐次ご報告等をいただいていたものでございますけれども、1月13日までに回収するということですね。

天野課長

そうです。返信用の封筒も全部入れて、申し出をくださいと。児童生徒1人につき1枚ということで、兄弟がいても必ず判子を押ししてもらおうという形にしております。

岩原委員長

それによって、温泉中学校、温泉小学校の生徒数の規模がはっきりするということですか。

天野課長

そうです。それと花和地区の方が洞爺の学校に行くこともすべて確認しますということで、今お配りした物をちゃんと入れて、説明会が結構間あいたので、これを見て確認をして、検討していただいて、書いて出してくださいということで入れています。

来栖委員

洞爺湖温泉中学校に訪問したときに、校長先生が有珠山噴火のお金があるから、編入する子供たちの現在1年生及び2年生の子たちが虻中にもし行くのであれば、新しい制服はその予備費から買ってあげるようにしたいということをおっしゃっていたので、もし出来ればその文言もあった方がいいのかなど。

天野課長

規則は法律に基づいて、この地域にいる子はこの学校に通いなさいと定められているので、その制服は別な話なので、これはあくまでもどこに子供の住所があれば、この学校に行きなさいということを決めなさいという規則ですので、その辺については保護者の皆さんと学校で協議していると思いますので、実態的な話は今後多分出てくるとは思います。

吉田委員

通学先の予備的な調査はもう終わっているのですよね。

天野課長

アンケートを1回とっているのですが、実際には温中に残るのが現在の2年生

5名のうち4名ということで、アンケートのとおりいけば、27年度は3年生の4名。女の子だけの1クラスということになるという予定です。

この規則の中で、転入学の転入した場合についても選択できるとなっているのですが、実は温泉中学校を選択されても3年生しかいないので、実際に温泉地区だとか転入があった場合は、できれば温中ではなくて、虻中を進めるという形になるのかなど。いきなり入られても、先生の数も確定していないとかいろいろございますので、そんな形に実際はなるのかなど。

綱嶋教育長

体制もあるので、新小学校1年生、中学1年生は教育委員会が就学先を1月末までに決定しないとだめ。どこどこ中学校に4月1日から入学、どこどこ小学校に入学ですよ。それには選択制がありますから、その前に1年生の部分の手続を終わっていないと、法的に。極端に言ったら転校みたいな、2年生、3年生はそれでいいのですが。ということもあるものですから、改めて温中を廃校にして、条例を改正したら本来のこれ27年度限りの今審議をいただいているのですが、28年度以降も同じような形なんですけど、年数にはそういう明記をしないで、花和地区だと選択制、それから洞爺湖温泉の従来の学区も選択制という同様な内容の規則もまた改めて必要という考えでいます。

温中を廃止していないので、そこに触れられないので27年度限りの今取り扱いをさせてもらうという内容ですので、よろしく願いいたします。

岩原委員長

他に何かご意見、ご質問ございませんか。

綱嶋教育長

多分、来栖委員からお話のあった制服の問題、我々が心配しているのは教材。3年間使う教材も多分温中であると思う。基本的には2年生の時に何を使って教材準備をする。

3年生時にもある。それは、どこの学校いっても同じだからいいが、ずっと3年間中学生として使う教材も用意していると思う。虻中に行く場合とは当然新たな費用負担が出てきますので、それは町として保護者と協議しないといけない。

岩原委員長

他ございませんか。

なければ、この件につきましては終わりにしたいと思います。

・議案第33号

続きまして、議案第33号洞爺湖町立学校管理規則の一部改正についてお願いいたします。

天野課長

それでは24ページでございます。議案第33号洞爺湖町立学校管理規則の一部改正について。洞爺湖町立学校管理規則の一部を改正する規則を次のように定めるものでございます。

洞爺湖町立学校管理規則平成18年洞爺湖町教育委員会規則第12号の一

部を次のように改正するという事になってございます。この改正の理由で
ございます。

これにつきましては、北海道立学校管理規則の一部を改正する教育委員会
規則が、平成26年10月14日付けで交付をされているところでございま
す。これに合わせて、同様に改正をするということでございます。

改正の内容でございますけども、気象等に関する特別警報、今いろいろ出
て新たに設けられまして、発表されたとき校長が臨時に授業を行わないこと
ができる場合を具体的に示すことにより、臨時休業の措置が適切に講じられ、
児童生徒又は生徒の安全が確保されるよう所要な改正を行うということでの
道の改正があったことに合わせて、同様に規則の改正をするというもので
ございます。

それでは25ページの新旧対照表をご覧ください。右側が現行でございま
す。第32条で簡単に臨時休業ということで、やむを得ない場合ということ
しか書いてございませませんが、左側が改正案ということで、32条本文の次に
1号、2号ということで新たに加えてございます。

1号ですが、学校所在地又は大半の幼児、児童若しくは生徒が居住してい
る地域に、気象等に関する特別警報が発表されたとき等、非常変災その他急
迫の事情があるとき。

それから、その他2号として、校務の運営上やむを得ないと校長が認める
ときということで、1号が今回の主要な規則の改正となるということで、3
2条全文を改正したというものでございます。

24ページに戻っていただきまして、附則でございます。この規則は公布
の日から施行するという事で改正をするものでございます。以上でござい
ます。

岩原委員長

ただいまご説明がありました。大きな改正としては1項が加わったという
ことですが、これについて何かご質問ございませんか。

ないということで決定いたします。

続きまして、議案第34号洞爺湖町就学指導委員会規則の一部改正につい
てお願いいたします。

天野課長

議案第34号でございます。議案第34号洞爺湖町就学指導委員会規則の
一部改正についてでございます。

洞爺湖町就学指導委員会規則の一部を改正する規則を次のように定めるも
のでございます。洞爺湖町就学指導委員会規則平成18年洞爺湖町教育委員
会規則第14号の一部を次のように改正するものでございます。

この改正の理由でございますが、これにつきましては、北海道就学指導委
員会設置規則の一部を改正する教育委員会規則が、平成26年3月31日付
けで公布されたということで、この公布に合わせて所要の改正をするとい
うものでございます。

・ 議案第34号

改正の内容でございますが、学校教育法施行令の一部改正に伴い、早期からの教育相談、支援及び就学先決定時における、就学指導のみならず就学における一貫した教育支援について、助言を行うという観点から、委員会の名称及び所掌事務について就学指導を教育支援に改めるというのが主な内容でございます。それらの所要の改正を行うというものでございます。

それでは新旧28ページをご覧ください。28ページの右側が現行でございます。左が改正案でございます。まず、規則の題名の変更でございます。洞爺湖町就学指導委員会規則を洞爺湖町教育支援委員会規則ということに改める。

第1条設置でございますが、設置についても同様の目的と教育支援委員会に改めるというものの改正。それから第2条所掌事務でございますが、ここについては、第2項として新たに所掌事務を4号まで、4つを新たに加えたというものでございます。

委員会は前項の調査及び審議を行うため、次の業務を行う。(1) 障害のある幼児児童生徒に関する障害の状態や教育上必要な支援の把握。それから(2) 障害のある幼児児童生徒に関する教育相談。(3) 障害のある児童生徒等に関する就学後の支援に対する助言。(4) その他必要な事項ということで、所掌事務がはっきりと定められたというもの。それから第3条組織については、指導委員会を委員会に、それから第4条第1項本文中指導委員会を委員会、それから第4条第5号では知的障害児援護施設を知的障害者援護施設と名称を改正する。

それから29ページにまいりまして、第5条、第6条、第7条それから附則の第3項において指導委員会を委員会に改める改正でございます。

本文に戻りまして、27ページでございます。この規則は公布の日から施行するというものでございます。以上でございます。

岩原委員長

ただいま説明ございましたが、就学指導委員会の規則の中で、洞爺湖町教育支援委員会に改め、それに伴っての文言の変更があるということの説明でございます。

これにつきまして、何かご質問ございませんか。

« 「ありません」という人あり »

なければ、承認いたします。

続きまして、議案第35号洞爺湖町特別支援教育連携協議会設置要綱の一部改正について、お願いいたします。

天野課長

それでは30ページでございます。議案第35号洞爺湖町特別支援教育連携協議会設置要綱の一部改正についてでございます。洞爺湖町特別支援教育連携協議会設置要綱の一部を改正する訓令を次のように定めるものでございます。

洞爺湖町特別支援教育連携協議会設置要綱平成18年洞爺湖町教育委員会

・ 議案第35号

訓令第24号の一部を次のように改正するというので、この改正の理由につきましては、先ほどの議案第34号と同じでございます。

これまで言っておりました就学指導委員会の下に、事前に協議を諮る協議会というものが設けられておまして、それに関連するものでございます。

同様の改正の内容でございます。31ページの新旧でございます。現行が右、左が改正でございます。第1条設置目的、洞爺湖町就学指導委員会（以下「指導委員会」という）を洞爺湖町教育支援委員会（委員会）というに改める。それから、第3条、第4条、附則の第2項中指導委員会を委員会に改めるというものでございます。

30ページに戻りまして、附則でございます。この訓令は、平成26年12月30日から施行するものでございます。以上でございます。

岩原委員長

議案第34号で協議いただきまして、これに伴っての名称の変更ということかと思えます。これにつきまして、何かございませんか。

なければ承認いたします。

日程第6

【その他】

岩原委員長

その他について、何かございますか。

≪「ありません」という人あり≫

日程第7

【閉会】

岩原委員長

ないということですので、以上をもちまして第6回臨時会を終了いたします。

(14:30)